

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

亀岡市

事業名

保津川環境学習・ふるさと学習事業

事業の経過・背景・課題

本市は、全国初かつ唯一のプラスチック製レジ袋の提供を禁止する条例を制定し、世界に誇れる環境先進都市・亀岡市を目指している。

これらの環境への取組は、保津川下りの船頭の環境活動からはじまったものである。環境に関する事前学習を行ったのち、亀岡の観光資源でもあるラフティングや保津川下りを活用しつつ通常コースにはない途中下船して川ごみの現状を知る清掃活動とセットで体験学習を実施する。

以上のことにより環境について学びを深めるとともにシビックプライドの醸成をはかる。

取組内容

交付実績額： 2,825 千円

亀岡市立の小・義務教育学校の全4年生を対象にPepperなどを活用した事前学習を実施したのち全員がラフティングを体験する。

また亀岡市立の全中学校2年生及び義務教育学校の8年生は、環境の取り組みの始まりとなった活動をした船頭の講演を聞いたのち、保津川下りを体験する。いずれも途中下船し、清掃活動を行うことで、川ごみの現状を学ぶ機会としている。



事業の成果・今後の展望等

- ・郷土の観光資源も活用しながら、実際に環境について学ぶ体験をすることで、環境問題について深く学び考える機会となり、今後の取組につながることを大きく期待している。
- ・天候に大きく左右される事業であるため、予備日の増加や中止の判断の基準を明確にする必要があるが、今後亀岡市のみでなく、近隣の学校にも課外活動として利用してもらい、注目してもらうことで、交流も広がると考える。

問い合わせ先

亀岡市教育委員会教育総務課（0771-25-5052）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

亀岡市

郷土愛を育むエコラフティング・保津川下り環境学習の機会をすべての児童・生徒に提供する事業

事業の経過・背景・課題

本市は、全国初かつ唯一のプラスチック製レジ袋の提供を禁止する条例を制定し、世界に誇れる環境先進都市・亀岡市を目指している。

これらの環境への取組は、保津川下りの船頭の環境活動からはじまったものである。環境に関する事前学習を行ったのち、亀岡の観光資源でもあるラフティングや保津川下りを活用しつつ通常コースにはない途中下船して川ごみの現状を知る清掃活動とセットで体験学習を実施する。

以上のことにより環境について学びを深めるとともにシビックプライドの醸成をはかる。

取組内容

交付実績額： - 千円 ※セット新規

(※) 本交付金を活用することで生じる余剰財源の1/2程度の額により
教育環境の充実に資する事業を新たに実施・拡充

亀岡市立の小・義務教育学校の全4年生を対象としたエコラフティングを体験、また亀岡市立の全中学校2年生及び義務教育学校の8年生を対象とした保津川下りを体験について、令和5年度実施できなかった児童・生徒に体験の機会を提供する。



事業の成果・今後の展望等

- ・郷土の観光資源も活用しながら、実際に環境について学ぶ体験をすることで、環境問題について深く学び考える機会となり、今後の取組につながることを大きく期待している。
- ・天候に大きく左右される事業であるため、予備日の増加や中止の判断の基準を明確にする必要があるが、今後亀岡市のみでなく、近隣の学校にも課外活動として利用してもらい、注目してもらうことで、交流も広がると考える。

問い合わせ先

亀岡市教育委員会教育総務課（0771-25-5052）

亀岡市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

テスト採点支援システムの導入

事業の経過・背景・課題

教職員の働き方改革を進めているものの、依然として教職員の長時間勤務の大幅な縮減には至っておらず、ICTの活用等、更なる業務の効率化に向けた取り組みを進める必要があった。

特にテスト採点については、答案ができるだけ早く生徒に返却するために、短期間で採点を終える必要があり、教職員の負担が大きく、長時間勤務につながっている。

取組内容

交付実績額： 224 千円

テスト採点支援機能を市内全中学校及び義務教育学校（後期課程）に導入し、定期テストや学力テストをデジタルで効率的に採点することにより採点時間の削減を図る。

導入後は、アンケートを実施し、事業の効果測定を行う。



事業の成果・今後の展望等

- 令和7年1月に教員に対して実施したアンケートの結果、回答者のおよそ6割が当該機能を利用したことがあると回答し、そのうち作業時間が実感として50%以上削減されたとの回答は80%であった。
- 当該機能の導入により、テストに係る採点業務の効率化が図られたことで、テスト採点以外の業務へ取り組む時間や、生徒に向き合える時間の創出につながった。

問い合わせ先

亀岡市教育委員会教育総務課（0771-25-5052）

亀岡市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

学校図書館への司書派遣事業

事業の経過・背景・課題

本市では、令和3年度まで専任の「学校司書」の配置がなく、市立図書館の職員1名を市内小学校6校に派遣していた。

本に関する助言・整備等を行い子どもたちの読書への興味を高めるとともに、授業支援等を行い子どもたちの「学び」を支えるためには、学校司書の配置が必要であるため、令和4年度から学校司書を3名任用し全小学校に配置したが、中学校には配置しておらず、図書館教育を進める環境が十分でない。

取組内容

交付実績額： 2,054 千円（小学校配置 3名）

※セット新規：中学校配置（3名）

（※）本交付金を活用することで生じる余剰財源の1/2程度の額により教育環境の充実に資する事業を新たに実施・拡充

全小・中学校、義務教育学校を学校司書（6名）が巡回し、子どもが読書に親しむことができる環境を向上
(学校司書は、拠点校を中心に担当の学校を巡回)

【取組内容】

- 学校図書館の整備
 - ・学校図書館の環境や資料の整備
 - ・児童生徒への読書支援
 - ・学校図書館情報の発信等
- 教育指導への支援
 - ・情報の紹介、資料リストの作成等による授業支援
 - ・司書教諭との連携による様々な教育支援



事業の成果・今後の展望等

- ・専任の「学校司書」がいることで、子どもたちが図書館に足を運びやすく本に関する相談ができるなど、読書量の増加につながっている。
- ・子どもたちの手に渡る本がきれいになり、新しい本も早く提供することができるなど、学校図書館の環境整備が格段に良くなった。
- ・学校図書館は児童生徒の読書活動の拠点であるため、学校司書の配置をより充実させ、巡回回数を更に増やしていく必要がある。

問い合わせ先

亀岡市教育委員会教育総務課（0771-25-5052）

亀岡市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

授業支援ソフト「ロイロノート」の導入事業

事業の経過・背景・課題

国のGIGAスクール構想に基づき、令和3年4月に児童生徒1人1台タブレットを配備。充実した授業展開を図るため、令和4年度は授業支援ソフト「ロイロノート」を試験的に導入し、タブレットを活用した授業を行った。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業支援ソフト「ロイロノート」の活用が有効であるため、令和5年度から本格導入している。

取組内容

交付実績額： 2,003 千円

授業支援ソフト「ロイロノート」を導入し、学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る

- 教職員研修「創造的な授業づくり講座」で有効的な活用方法を共有
- 「活用型情報モラル教材GIGAワークブック」ロイロ版等の教材を共有
- 活用状況を確認し、活用頻度が少ない学校への支援を実施
(ICT支援員を重点的に配置、指導主事による指導助言)



事業の成果・今後の展望等

- より多くの児童生徒に発表させることや、回答を共有し、協働して考えあうこと、思考の可視化により、深い学びに繋げることで児童生徒の思考力、判断力、表現力を向上させることができる環境を充実させることができた。
- 児童生徒が主体的に課題と向き合い、自らの考えを持ち、考えを伝えあうことで、学びの意欲を高め、深まりを求める「考え方授業」の充実が図れた。
- 「ロイロノート」の導入により、タブレット端末の活用促進を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、今後も取り組みを進めていく。授業における活用率は、小学1年～3年で66.7%、小学4年～6年で90.4%、中学1年～3年で95.7%となっており、発達段階や教科の特性に応じた活用について検討し学習活動を充実していくとともに、活用の進みにくい学校へ指導助言や支援を実施していく。

問い合わせ先

亀岡市教育委員会教育総務課 (0771-25-5052)

亀岡市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

確かな学力育成補助金事業（小学校・中学校）

事業の経過・背景・課題

亀岡市「確かな学力育成ビジョン」に基づく取組の一環として、亀岡市小・中学校校長会、小・中学校教育研究会と教育委員会が連携して「亀岡市確かな学力育成会議」を組織し、学力向上対策を進めてきた。

学力向上を図るには、単年度での評価のみではなく、義務教育9年間の中で、全体を見通した系統立った学習を進める必要がある。

取組内容

交付実績額： 1,719 千円

児童生徒の確かな学力を育成するため、本市独自の学力調査を実施する「亀岡市確かな学力育成会議」に対して学力調査にかかる費用の支援を行い、9年間の学力調査結果を紐づけし、より詳細な分析を行うことで、義務教育期間全体を見通した学習を進める。

【学力調査の対象】 小学校1～6年生、中学校1、2年生

【学力調査の内容】 小学校：国語、算数

中学校：国語、数学、英語



事業の成果・今後の展望等

- ・単に各年度で学力調査を受けるだけでなく、個人個人で調査結果を紐づけをすることで、義務教育の9年間を通して、学力の推移を追跡することができ、適切なタイミングでの児童生徒への指導につなげることができた。
- ・学力の推移は、複数年観察する必要があり、即効的な効果を認めるのは困難であるが、各児童生徒の紐づけを着実に、かつ有効に活かし、事業を進めていく。

問い合わせ先

亀岡市教育委員会教育総務課（0771-25-5052）

亀岡市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

英語検定チャレンジ事業

事業の経過・背景・課題

グローバル化が急速に進展する中、その社会で対応できる人材の育成が求められており、外国語教育の重要性が増している。

中学校卒業段階で英語検定3級相当レベルに達した生徒の割合について、国の目標の6割と同等の水準を本市でも目指すとともに、英語力の向上を図ることで、グローバルな人材を育成する。

取組内容

交付実績額： 856 千円

生徒の英語力の向上を図るため、英語検定にチャレンジする機会を設ける。

・対 象：中学校2年生及び3年生
(義務教育学校8年生及び9年生)

・検定試験日程：令和6年5月
令和6年10月
令和7年2月



事業の成果・今後の展望等

- ・英語検定受験に向け、英語への学習意欲を高めることで、英語力の向上を図ることができた。
- ・中学2年生から対象とすることで、裾野が広がり、3年生に進級した際には、より上位の級を目指すことができるようになった。今後も、より周知を図り、英語力の向上を図る。
- ・英語検定3級相当以上取得者（中学3年生）令和5年度14.5%→令和6年度15.4%

問い合わせ先

亀岡市教育委員会教育総務課（0771-25-5052）

亀岡市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

スクールロイヤーと共に創る子どもが安心して学べる 教育環境づくり事業

事業の経過・背景・課題

SNSの普及など、子どもたちを取り巻く環境の変化により、いじめ問題や不登校児童生徒の増加など、様々な問題が複雑化していることを踏まえ、法律の専門家（弁護士）から、法的側面による指導・助言を受け、学校における問題の早期解決や対応における相談体制の強化を図るために、スクールロイヤー制度を創設。

取組内容

交付実績額： 24 千円

①相談

スクールロイヤーが、学校が直面する解決困難な問題や諸課題への対応方法等について、幅広く相談に応じ、弁護士としての知見と子どもの権利を守る視点などに基づき、中立的な立場から学校へ法的な助言を行った。



②研修 (R7.1月・2月実施)

小・中学校等の教職員を対象に、いじめ事象の重大化を未然防止するためなどの、問題解決における適切な対応について、法的な視点に基づいたスキル向上を目指した、スクールロイヤーによる研修を実施。



事業の成果・今後の展望等

- ・スクールロイヤーの活用により、問題の未然予防や早期解決、深刻化を防ぐことにつながった。また、先生が子どもたち一人一人と向き合う時間が増えたとともに子どもの権利を守ることに関し意識の向上にもつながった。
- ・教職員の問題解決能力向上のため、管理職だけでなく、教職員にも今後も研修を重ねていき、スクールロイヤーの活動を普及していく必要がある。

問い合わせ先

亀岡市教育委員会教育総務課 (0771-25-5052)